助産師レター 49

滋賀県看護協会助産師職能委員会 2022

皆さんこんにちは、助産師職能委員長の溝口です。新年度がスタートしており、各病院・施設は４月から忙しい時期かと思います。さて先日の３月２６日開催しました、「助産師職能集会」の参加有難うございました。講師の野村産婦人科の野村先生の、滋賀県の周産期医療の現状と、今後の助産師に期待されるもの、そして、グループワークでの、其々の施設での意見交換で、大変盛り上がりました。是非このような各施設の顔が見える意見交換を年間何回開催して欲しいと言う意見が多くありました。この研修会の意見を次年度につないでいきたいと思います。
2021年度の助産師職能委員会の活動も、この「助産師レター」の発刊が最後になります。
1年間皆様有難うございました。

近畿地区助産師職能合同研修会

令和3年12月11日（土）近畿地区助産師職能委員リモート参加
テーマ「母子の為の地域包括ケア推進助産師が出来ること」
★井本常任理事より「母子の為の地域包括推進政策」について
★グループワークでは、産後ケア事業が中々進まない現状や、妊産婦にもっとPRしていかなければいけない事
★近畿地区COVID－19第６波への対応

助産師出向

滋賀県からの受託を受けて、開始された「助産師出向支援事業」の取り組みは、平成27年度より開始され、毎年病院・診療所へ助産師出向が行われてきました。そして、平成26年から、令和3年迄の7年間で、出向者数は25名です。分娩件数も多い方で、2か月の出向で29件の分娩介助を経験出来、成長されています。最近では、分娩介助のみではなく、NICU・GCU体験も含まれて多岐の出向になっています。

2022年3月10日に、「令和3年度　助産師出向支援事業　実践報告会」が開催され、出向元の管理者からは、出向を終えた本人から、2週間で11例の分娩介助が経験でき自信に繋がったと報告を受け今後の成長に期待しているとの事でした。
今後も助産師出向支援事業の参加に多数の応募をお待ちしています。

KENSYU

8月17日（水）

新生児の病態生理と異常の対応を事例を通して学ぼう

申し込み受付期間
6/1（水）～6/10（金）

10月1日（土）

事例から学ぶ！
胎児心拍数モニタリングの判読とリスク診断の対応

申し込み受付期間
8/1（月）～8/10（水）

2021年度助産師職能集会を開催しました（2022年3月26日）。コロナ禍で開催自体が危ぶまれましたが，実践・行政・教育など様々な立場の助産師，さらに看護師・保健師も参加くださいました（計33名）。産婦人科医会会長の野村哲哉先生から「びわこセーフチャイルドバースネットワークについて」と、そして日本看護協会井本寛子常務理事の飛び入り参加でいただいた激励もうれしかったのですが，やはりエンパワーされたのは，ブロック毎に分かれてのグループワークでした。
COVID-19関連，助産師の偏在と働き方，アドバンス助産師，産後ケアの社会や妊産婦へのアピール，混合病棟と助産師キャリア，搬送と受け入れ，院内助産システムのあり方検討，行政や議員との関係性構築など，様々な話題があがりました。この意見交換を通じ，改めて『お隣の助産師仲間』とのFace to faceの意義を感じましたし，またこれを継続させるために職能委員会が担うべき責務も感じました。今後も皆様といっしょに考え続けていきたいと思いますし，今年度の集会でもまたお会いできれば嬉しいです。

顔のつなぎ

- 地域・学校・病院がつながること
- 顔がわかる研修会の必要性

産後ケア

- 産後ケアを利用出来ない（タイムリーに利用できない）
- 妊産婦にPRが必要（妊婦健診の時からPR）

COVID-19の影響

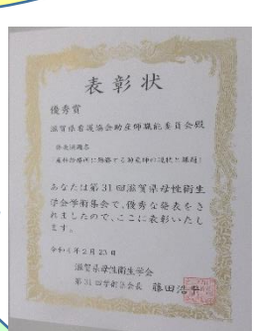
- 面会制限・両親学級開催が困難。父性への影響
- 立ち合い分娩の停止

助産師の働き方

- クリニック勤務の助産師は少なく、病院は多い。
- 病院から地域への出向や派遣もありでは。

市立長浜病院
産前産後ケアステーション
【にじいろ】を開設されました！
今回の助産師職能集会のグループワークで近隣の助産師の顔つなぎの場となり、各施設の現状を知ることができました。
まずは近隣施設の助産師同士手を取り合うことから始めて、妊産褥婦さんのために頑張っていきましょう。

滋賀県母性衛生学会より最優秀賞をいただきました



令和3年度助産師職能委員のメンバー

初田　聡美（副会長）　市立大津市民病院
溝口　浩子　済生会滋賀県病院
平本　留見　滋賀医科大学医学部附属病院
西村　里江　大津赤十字病院
押谷　優子　長浜赤十字病院
三田村　七福子　淡海医療センター
西川　みゆき　近江八幡市立総合医療センター
花原　恭子　聖泉大学